


5. 被災・対応シナリオ

わが地区における地震による時系列での「被災シナリオ」と「対応シナリオ（自助・共助）」を考えましょう。

(1) 被災・対応シナリオ（自助・共助）の考え方


1) 「被災シナリオ」の考え方

まず、わが地区ではどのような被害が発生するか、時間の流れに沿ってイメージするために、「被災シナリオ」を作成しました。テーマ別に、発災から72時間までの被害の流れを示しています。

 p16 参照


2) 「対応シナリオ（自助）」の考え方

「対応シナリオ（自助）」では、「被災シナリオ」に対応した個人やご家族での対応として、6つの行動手順（①安全確保・状況把握、②初期消火・避難、③救出救護、④組織活動への参加、⑤避難生活、⑥在宅避難）を時系列で示しました。

 p16 参照

3) 「対応シナリオ（共助）」の考え方

「対応シナリオ（共助）」では、「被災シナリオ」に対応した住民防災組織の対応として、4つのテーマ（①地盤被害、②建物倒壊、③建物火災、④要援護者）に分けて、時系列のシナリオを作成しました。

 p18 参照

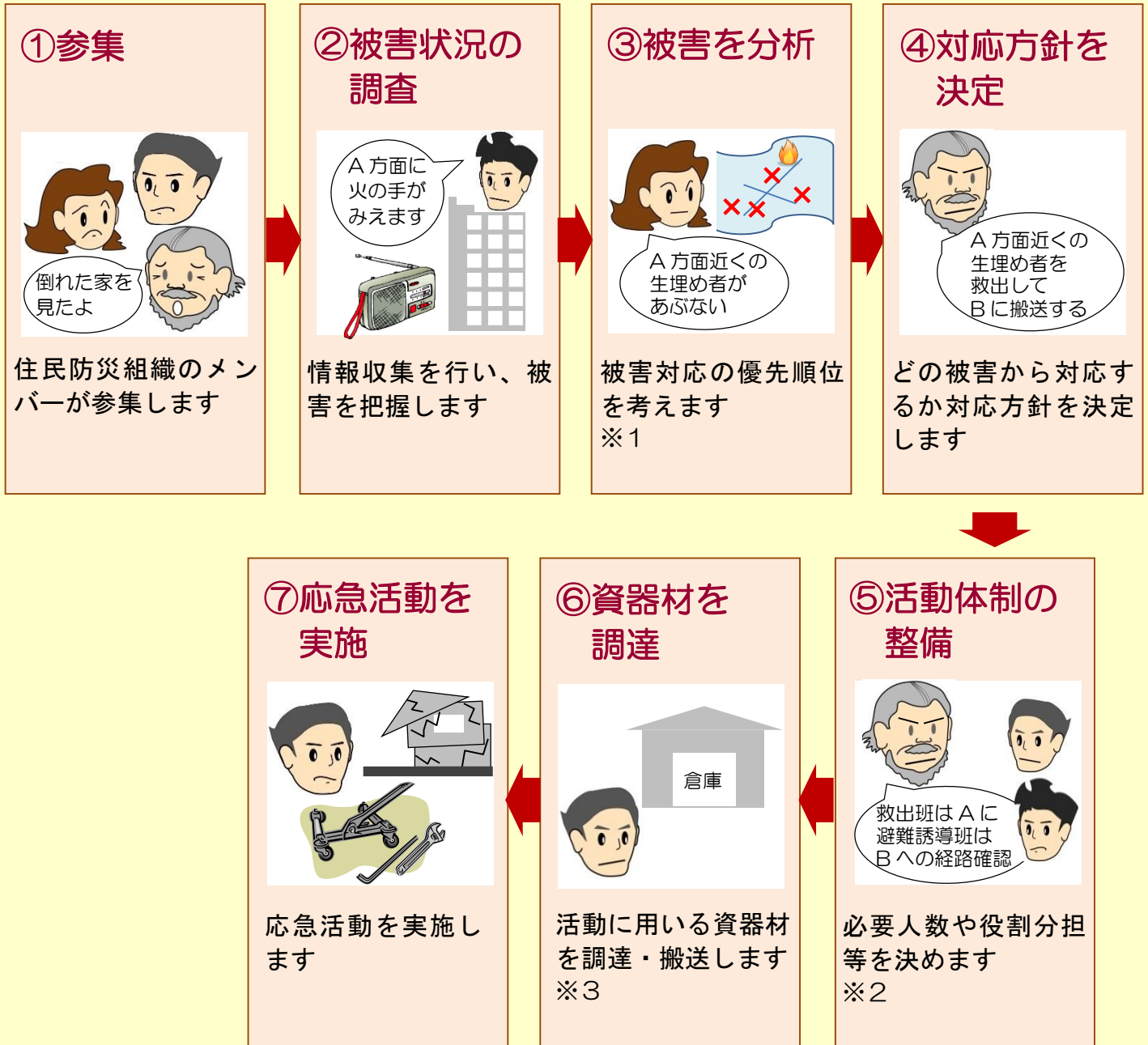
対応シナリオ（共助）の基本パターン

「対応シナリオ（共助）」を検討するにあたり、災害後の応急対応には共通する行動パターンがあることを押さえておくと役立ちます。

たとえば、いずれの応急対応を行う場合でも、まずは①住民防災組織のメンバーが参集し、②被害状況を把握するところから始まります。③「いつ、どこで、どのような被害が発生しているか」、その集まった被害情報をもとに、応急対応の優先順位を考えます。④それをもとに、「いつ頃、誰が、どこで、どのような活動をすべきなのか」、その活動方針を決めます。それに基づき、⑤活動体制を組み、⑥活動に必要な資器材を集め、⑦応急活動を実施します。

パターンどおりにいかない場合も想像しながらシナリオを考えましょう。





※1 大規模災害時に被害情報の全てに対応することは難しいため、組織活動の優先順位をつけます。

※2 あらかじめ役割分担を決めていても、災害時に参集できない場合もありうるため、その場にいる人で役割を決め、体制を作ることもあります。

※3 必要な資器材の全てを防災倉庫に備えることは不可能なので、普段「業」として使っている事業所から借用したり、使えそうなものを代用するなど柔軟な発想が必要です。